

第4回・第4期第4回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 地域ごとのまちづくり計画推進部会 オンライン会議 議事録	
開催日時	令和3年4月22日（木）18：30～19：45
開催場所	オンライン会議及び書面会議併用 (傍聴場所：市役所3階 特別会議室)
次 第	1 開 会 2 今年度の事務局体制について 3 委員の辞任について 4 議事 (1) 地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについて 5 その他 6 閉会
出席委員	1 オンライン会議出席委員 久会長、足立委員、飯室委員、平原委員、加藤委員、喜多委員、 中山委員、檜垣委員、永崎委員、福永委員 2 書面会議出席委員 松川委員、山口委員、牟田委員
開催形態	公開（傍聴人0名）

1 開会

事務局から、本日の出席者は 10名、書面で3名、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は0名であることを報告した。

2 今年度の事務局体制について

事務局から、人事異動に伴い、吉岡課長・川上職員が異動、後任で新城課長・石谷職員が着任したことを報告した。

3 委員の辞任について

事務局から、市民公募委員の小西委員より辞任の届出があり、令和3年（2021年）3月31日付けで委員を解職したことを報告した。補欠委員については、第4期委員の任期満了日が令和3年9月19日であり、公募手続きのスケジュール等を鑑みると、新たな委員の就任期間が非常に短期となることから、選任・委嘱は行わないこととした。

（委員からの異議はなし）

4 議事

(1) 地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについて

事務局より、地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについて、PDCA サイクルの「PLAN (共有、協議、事業計画)」の部分の仕組みが一定固まったため、本会議では、「Do (実践)、Check、Action (実践の評価、改善)」の進捗管理の仕組み案及び仕組みづくりにかかる今後のスケジュール等について、配布資料に基づき説明を行った。意見の内容は以下のとおり。

ア (会長) 本日の委員の中には、実際に仕組みの中の各シートを書いてもらう立場の人もいるので、気づいた点、質問、意見等があれば述べてほしい。

イ PDCA の考えを取り入れられたのはとてもいいことだと思うが、PDCA とは元々工学系の生産技術の中の品質管理の手法であり、それを地域ごとのまちづくり計画を推進していくことに当てはめるのは、難しい面もある。本来、サイクルが非常に短いものに当てはめると効果が出るが、1年たってもまだ Do の段階であるという取り組みも発生する。まちづくり協議会では、推進シート・対話シート・進捗確認シートの3つをしっかりと書くことが大事であり、仕組みを頭に入れて、書くのは難しい。市としても、「推進シート・対話シート・進捗確認シートをしっかりと書くこと」と指示いただけるとありがたい。

質問だが、全ての「具体的な取り組み」に対してこの仕組みを行うということなのか。

ウ (事務局) 最初の PLAN の仕組みの中で、仕組みに乗せなくてもよい取組 (既に協働が進んでいるもの、対話が進んでいるもの等) と乗せるべき取組を振り分けてもらうので、すべての「具体的な取り組み」に対して「推進シート」を書いてもらうことにはならない。

ただ、1年の振り返りの中では、すべての「具体的な取り組み」について4段階の評価をしてもらえれば、市民・行政の双方にとっての見える化になると思っている。

エ 実際に行う立場として、未着手のものが相当数あり、絞って優先的にすすめていく形になるため、我々の進められるものだけしか書けないと思う。書いていることをきっちりやろうとすると、毎日作業しないと書けないことが想定されるため、選択・選別した形で、作っていきたいと思うがよいか。

オ (事務局) すべての取り組みを行おうとして、地域の負担が大きくなってはいけないと思っているので、それぞれ優先順位を毎年つけながら、地域ペースにあった話し合い・対話を進めて、取り組んでいけたらと思っている。

カ PLAN をいかにしっかりと行っていくか、例えば市と協働で行う場合は行政の方にしっかりと受け止めてもらえるようにすることが必要。我々の考えるまちづくり計画でいくと、Do の段階まで行けば大したものであり、Do まで行って改善をしたほうが良いという結果 (Check、Action) が綺麗に出るのか心配している。おそ

らく、PLAN・Doの繰り返しになっていく気がしている。綺麗なPDCAサイクルには、なかなかならないのではないかと予測しているが、そのような形でもよいか。

キ（事務局）PLAN・Doの繰り返しが自然とCheckの役目にもなり、改善も図られた上でまたPLANに戻っていくものと思われる。それが対話を進めていく意義だと思っている。今の話が自然とPDCAが回っているということではないかと考えている。

ク（会長）大学でもPDCAを回すよう文部科学省から言われており、できる限り完全に尚且つ効率的に行いたいと思っている。今回、進捗確認シートの中で、「完了・継続・調整中・未着手」の4段階の評価があるが、事業の進み具合で自動的についていくような基準となっているので、時間をかけずにすむと思っている。あとは、備考欄で特記事項があれば書いてもらうような形で、全体の管理が進んでいけばいいと思っている。市は、それぞれの事業がどの段階にいつているのか、何パーセントが進んでいるのかという部分の基礎的データがこの段階の評価として知りたいのではないかと。訂正的な内容は、備考欄に書いてもらったりするなど、メリハリをつけてもらえると手間も省けるとしている。また、「評価をする」という習慣づけそのものがとても重要であり、良い評価ができ評価シートを埋めれることが一番良いが、毎年やるという習慣づけがまず重要ではないかと思うので、しんどくなって嫌になるよりも毎年手間をかけずにやっていくことがまずは重要。

ケ 今の説明を聞いてほっとした部分もある。まちづくり協議会の取り組み・事業を誰がみてもわかるように明確にすることはとても大事だと思うが、真面目に取り組む人ほどしんどくなるのではないかとしている。最初の説明で出席者にとって無理のない回数での取り組みと説明があったが、「年に3回」というような様々な種類の会議が積み重なって、年に100回近くの会議数になった経験を過去にしている。新たに、まちづくり計画のために時間を割いてもらうのは、その人にとってどれだけの負担になるのかということが今なかなか見えない。あと、年に1回の確認の際、同じ進み具合でも確認する人によって、6つも進めたと思う人もいれば、6つしか進められなかったと思う人もいて、とても難しいと思う。それが、客観的な検証・評価にどのように響いてくるのかという不安もある。できれば、丁寧に話をしていき、システムのような誰がやっても分かりやすいやり方というのがよいが、それが大きな負担となってやらない方がよかったということにならないように気をつけたいと思う。今まで用心しながら進めてきた部分もあるので、そのように感じた。

コ（会長）そのあたりについては、協議会の中でも考えてもらえたらと思う。マネジメントする人が最初に割り振っておけば、1人の負担は減ってくる。そのあたりは、いわゆる事務局に役割が集中しないように上手く役割分担をしていく。実はそれがまちづくり協議会の運営の中でも、常に皆が少しずつ手を貸しながら進めていくという運営にも繋がっていく話であり、考えながら皆で上手く役割分担して、

進捗確認シートが埋まるようにできればよいと思っている。また、参考にしてもらえればと思う。

サ 進捗状況の公表について、ポータルサイトへの公表はどのような形を考えているのか。

シ（事務局）現時点で、具体的なことは決めていない。

「宝塚市みんなのまちづくり協議会ホームページ」内にまちづくり協議会ごとに資料ページがあるので、そこに掲載するか、「まちづくり計画一覧」のリンクがトップページにあるので、そこから見れるようにするなど、なるべく簡単に情報がつけられるように工夫をしながら検討したいと考えている。

ス 大事なことは、各まちづくり協議会に関わる人が常に進捗状況を知ることができるといこと。ポータルサイトを見ることによって、委員以外のアイデアがでればよいと思っている。閲覧制限について、どこのまちづくり協議会の人も他のところを見れるようにするのか。個々のまちづくり協議会によって進捗に差が出た場合に、引け目を感じるのではないかと不安に思っている。

セ（会長）事務局は、すべてのまちづくり協議会の書いてもらったシートをそのまま公開するイメージなのか。

ソ（事務局）すべてのまちづくり協議会の評価の部分は公開するイメージを持っていた。意見を聞き、どのように公開すべきか検討課題として認識した。

タ どのように公開するかは検討した方がよい。公表されて問題のないところはいいが、各まちづくり協議会によって進捗の度合いは差が出てくると思うので、公開することによって嫌だと思われることは避けていきたい。

チ（会長）大学の評価でも同じような悩みは出てくる。評価シートを見る側の立場を考えたときに、できているかできていないかの目線でみてしまうと先程話のあったような問題が出てくる。大学で私が分担した先生に伝えているのは、体裁整えるために嘘を書かないでくださいと言っている。できていないのにできているふりをすることが一番よくない。PDCA を回すためには、できないことはちゃんと真摯に受け止めて何故できなかったのかということ进行分析して、次の年にがんばっていくというサイクルが回っていくことが重要なので、横並びで体裁悪いということではなく、自分たちの状況として、真摯に状況を受け止めてどのように改善していくかという視点で見ただけのような姿勢をもてば、格好が悪い・見せたくない等の話を避けられるのではないかと思っている。しかし、日本の社会はそういったことになかなか慣れていない。PDCA でどんどん評価しようというアメリカとは異なり、日本の社会ではまだ後ろ向きで、自分の恥は外にさらしたくないという話になっているのだが、現状なのだからどんどん見てもらってもいいと思う。まちづくり協議会の代表者会議の中でも、様々な意見が出てくると思うので、意見をもらいながら事務局の方で、どのあたりを公開したほうがいいのか等考えてもらえればと思う。

ツ 今の話の続きとなるが、一番は地域の住民に活動を公開することであると思う。

まちづくり協議会の構成員である地域住民にどうなっているのかを公表していき、運用を透明にするということ。結果的には、他のまちづくり協議会の人・他市の人が見れることになると思うが、一番のポイントは地域住民にこの計画が達成できているかということについて、公表することではないかと思う。

それに付随して、進捗状況の公表について、年度途中で計画が完了した際など、総会に限定せず、まちづくり協議会で結論が出て公表してもいい状況になった場合には、その都度公表してもいいということにしてはどうか。

テ（会長）最後の期限は揃える必要があるが、前もって発表することはどんどんしていけるという体制・書き方にしてほしい。

ト 計画の1番の問題点は、その計画を何年でやるのかを決めているのだが、どこまでいったら100%なのか、目標・水準が明確になっていないところがある。1年たった時、ここまでやれた・やれなかったという判断がつかないような計画になっているという実感がある。地域ごとのまちづくり計画推進部会から見ると、どこまでやったら達成かということが明確でない。課題があって、施策があって、何かをやろうとしている、どこまでやったらできていることになっているのか決まっていない気がする。これを決めていくのが私の仕事だと思っている。

ナ（会長）そのあたりは悩ましい部分である。料理・イベントなどであれば実施すれば完成だが、地域課題の解決を目指してやっている事業は、進んでいるのかではなく、地域課題を解決して本来の目的を達成するので、そのあたりをどのように評価するのか知恵を絞っていかないといけない。そういう意味では、やってみて、やりにくいところを変えていこうという話だったので、試行錯誤しながら、一緒に考えていければと思っている。

ニ 先程の話にも関係するが、自身のまちづくり協議会の計画では、おそらく完了して成功するのは1割程度、あるいは3割もいけば御の字ではないかと感じている。成功した・完了したものはそれでいいが、頓挫したのもでてくると思う。実は、その頓挫した理由が非常に大事だと思う。いいことをテーマアップしてやろうとしているのに、何故できなかったのかということ切り捨てるのではなく、できなかったという理由をしっかりと分析する方向にもって行ってほしい。

ヌ（会長）未着手も3年・4年と未着手が続くということは、何か理由があるはず。やる気がないという話ではなく、未着手の理由を明確にしてもらったら、次に違う事業を考えたり、やり方を考えてもらうことによって着手できるかもしれないので、できていないことに注目することも非常に重要と思う。最初に理想的なものを組み立ててしまったために着手ができないといった事態になっているのかもしれないので、自分たちの状況にあわせた形でスケールを小さくするなど無理のない範囲で始めていく等考えられる。そういった意味で、様々な気づきがこの評価から出てきたらいいと期待している。

ネ ポータルサイトで公開することは、頑張ってきたまちづくり協議会の人にとって、自分たちの頑張りを皆にみてもらえることになるので、すごく励みになるので

はないかと思う。今の話にあった未着手のものについて、皆で見れることによって、自分の所だけでなく他のところもできていないところがあるといった安心材料になればいいが、それが気持ちを削ぐことにならないようにしたい。もう一つは、例えば、夜になると暗くなる場所があるので明るくしよう等市民の安心安全に直結するようなものがある。そういった情報を公開するにあたっては、具体的な場所を特定されないように公開に気をつかわなければならないと思う。ワールドワイドに公開するということは、第三者がみて、そういった危険な場所があるということが分かってしまうので、注意を重ねていくべき。配慮をしたうえで公開してもらうことは、頑張ってきたまちづくり協議会の人にとっては嬉しいことだと思う。

ノ（会長）そういった状況を一番知っているのは地域の人なので、伏せてほしい情報については事務局と打ち合わせして、一番いい形で情報公開していければいいのではないか。

ハ 街灯をつけてほしいといった具体的な内容で結果がはっきりとわかるものがある一方、例えば「文化活動などは積極的にいきます」といった計画では、その結果を4段階で評価していく上で、具体的な計画と漠然とした計画の統一をしていない以上、評価はまちづくり協議会に任せるしかないのではないか。先程出た話も、まちづくり協議会で判断するのがよいのではないか。計画を作る段階で、ルール決めを行っていないので、これから整理することになるのではないか。まちづくり協議会によって温度差が出るのは当然だと思って行う必要がある。もう一つは、現在新型コロナウイルス感染症の影響で、会議すらできない状況であり、総会やコミュニティ会議等もほとんどできていないので、感染状況を見ながらどうしていくのが大きな課題になると思っている。

ヒ（会長）これをきっかけに新しい方法を検討していってもらえたらと思う。大学は、Zoom 等も含め、学生とコミュニケーションを図るために様々な道具を取り入れており、新しい使い方もどんどん出てきている。例えば、Google のシステムを入れているが、文書を共有しながら一緒に修正していく、表計算も皆で書き込みできる等そういった共有ソフトを使うようになって、先程の意見にもあった誰か一人が作業しなくても、皆が書き込みあえるので、とても Win-Win になってきている。新しい道具を積極的に取り入れていくことによって、あえて事務作業を一人でやることをやめてしまうとか、会わないでも意見共有ができる等そういったチャレンジも是非ともやってほしい。そういった助言は NPO センターが上手いと思うので、新しい道具を使いながら、地域活動をいかにスムーズに進めていけるかといったことを学び合いながら、進めてもらえると今までと違う評価の仕方ができるのではないかと期待している。

フ 評価の件について、評価基準の物差しがきちりしてないのではないかと感じている。取り組みの中には期間が長くかかるケースもある。対応を始めたということで、最後の完了でなくても、1年の評価で見たときに、ある面ではできたという評価の仕方もある。例えば、道路の問題等は、1年でできないことはわかっている

が、きっかけづくりができたということで、「完了」とまではいかななくても、「継続」となるのか、「調整中」となるのか。評価の仕方が分かれてくるのではないかといった心配もある。具体的に、評価の仕方のようなものを作るのかそれとも各まちづくり協議会に任せる形になるのか。

ヘ 今回の意見に対して、市民だけで行う場合は、市民の判断、行政だけで行う場合は行政だけの判断でいいと思うが、市民と行政が協働でやった場合は、お互いの話し合いをして、その完成度を決定するということを決めなければいけないと思っている。

ホ（会長）事務局は今のところはそれぞれのまちづくり協議会で独自に基準も作って評価してもらおうという姿勢か。

マ（事務局）評価の基準について、様々な取り組みがある中でどこまで作成すべきかという点について、様々な考えがあるものと思っている。4段階の評価の案を出したが、「調整中」についても対話が進んでいるという意味で肯定的に捉えるものではないかと思っている。「調整中」（対話中）は取り組みによってどこに当たるのか分からず、各まちづくり協議会で差ができることは確かにあると思う。どこまで統一できるかはわからないが基準の目安を作るか、進捗会議の場が評価になるのでそのあたりで支援ができないかと思っている。

ミ 原点に戻れば、評価記録を残していくことにより、まちづくり協議会の中でどこまでできたか備考欄を見ればある程度判断できるのではないかと思う。少なくとも、記録を残すことによって、次のステップにつなげていくということであれば、評価の4段階の評価内容については細かくこだわる必要はないのではないか。特に「継続」「調整中」の理由は備考欄に明記することで読み取ればいいとも思う。例を挙げながら基準を作っていくのも1つの方法かもしれないが、総会等の場で報告することになるので、その理由を説明していければと思っている。

ム（会長）評価の基準が記載されているが、大まかにいうと「完了」「継続」は何かが進んでいるということ、「調整中」「未着手」はまだ事業としては取り組まれていないということ、大きくいえばこの2つである。「調整中」というのは、まだ始められてないが、検討は始まっているというレベルである。評価段階をしっかりと読み解けばそんなに難しくないのではないかと感じている。3年後に完了するものは、1年目・2年目は「継続」になるため、「継続」が複数あったとしてもどう評価するかということになるので、対象年度で「完成」というものが何割あるのか等も考えながらパーセンテージを計算していくと、年度ごとの進捗がもう少しわかりやすくなるので、集計の段階でも工夫の余地はあるのではないか。

メ 評価とは何かと考えた際、自分たちのためにあるのでは思った。ここまでできたから次どうしようという振り返りであり、それがPDCAサイクルになる。3年・5年でどう変わっていくのかを見る人がいると思うので、その基準は自分たちの中で決めた方がいいと思った。以前、自身は転勤族だったが、転勤する際に家族や子どもの教育のことを考えた時どこに住むのか問題で、その時は口コミでし

かわからなかった。このように、どのようなまちづくり協議会があって、そこがどんな取り組みをしているのか目にみえるということは、外に向けてどんな所に住めば自分たちが生活できるのかということが見れて、外側から見た時それはとてもいいことだと思うので、是非情報をオープンにしてもらえたら若い人も住みやすく、来てくれるのではないかと思う。

モ（会長）今話を聞いて、公開するときに評価シートだけではなく、今年1年がんばった各まちづくり協議会のアピールポイントを写真付きで紹介するページと対になっていると、地域の魅力・頑張りをアピールできるようになるので、それも1つの案だと思う。温かみやアピール力のあるような評価部分を増やしてもらえるようにすれば評価をしている方も元気がでる。そういった形に工夫できないか事務局で検討してもらいたい。

ヤ 進捗確認シートの次年度対応優先順位の箇所で、何十とある計画の中で、1位2位3位…とつけていくのか、どのようなことを想定しているのか。まちづくり協議会の中で、福祉部・生活安全部等それぞれのグループで活動をしているため、各部（グループ）でそれぞれ行いたいことがあり、それに対してまた順位をつけていくのか。

ユ（事務局）優先順位をつける取り組みは、新たに行政と対話を進めていきたい取り組みに的を絞ったものであり、何十ある取組の内の一定数に絞ってもらえると思っている。今現在まちづくり協議会に順位を出してもらおうよう依頼をしているが、まちづくり協議会全体で優先順位を連番で付けるところもあれば、部会ごとに順位をつけているところもある。その部分については、順位につき1つの計画と厳密にしているわけではなく、部会ごとの優先順位でも一旦はよいと考えている。提出後は変更できないものではないので、各まちづくり協議会にあった形で、まずは提出してもらえたらと思っている。

ヨ 何故順位をつける必要があるのか。行政と住民との協働の課題で、行政側の取り組みについてはこれから検討するとなっているのに、新たに行政と対話をする取り組みを始める項目について、何故優先順位をつけなければならないのか、どのように考えているのか。

ラ（会長）1番と5番の取り組みはどう違うのか、イメージがあれば教えてほしい。

リ（事務局）この優先順位は、順番どおり対話を進めなければならないといった縛りをつけるようなものではない。優先順位をつけてもらった取り組みというのは、「Plan」の仕組みでいうところの「推進シート」が行政に出てくる取り組みであると認識している。各まちづくり協議会から、令和3年度どれくらい推進シートがでてくるのか行政として事前に把握したいということが大きなポイントである。取り組みの数・どこの部局との対話を希望しているまちづくり協議会があるのか事前に確認することで、同じ部署の説明の機会をまとめる等の事前調整のため聞いているものである。

ル（会長）先程の話を踏まえると、順位でなく、「○」でもよいのではないか。次年

度も推進シートに載せていくものに「○」をつけることで、地域からの取り組みの数は把握できる。事務局として考える余地があれば検討、順位にこだわる理由があれば別途説明してほしい。

書き方・運用の仕方について、多くの意見をもらった。細かい修正はあるかと思うが、代表者交流会でも意見を賜るかと思うので、市役所内の話も含めて次回部会にかけて最終決定としたい。代表者交流会で違う視点でみてもらい、変わる部分もでてくるかと思うので、そのあたりも検討させてもらいたい。

- 5 その他
 - 特になし
- 6 閉会

以 上

地域ごとのまちづくり計画推進部会 書面会議

地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについてのご意見一覧

No	会議	日付	該当する資料	意見の内容
1	計画部会	4月27日	資料① 仕組み（案）	<p>良いと思います。丁寧に話し合いの場を持って対話しながら進めることや、進捗管理の大切さが伝わってきます。進捗確認シートの使い勝手については、皆さんが使ってみなければ正直わからないところがありますので、今後皆さんでアレンジされたらいいと思います。</p>
2	計画部会	4月27日	その他	<p>参考資料について、修正可能かどうかわかりませんが気になるところが1点あります。</p> <ul style="list-style-type: none">・1ページ目の2-(1)の<対象となる取り組み事例>という表記が勘違いしやすいと思います。 <p>シートを使わない場合の「対象」という意味でしょうが、<シートを使わない取り組み事例>の方がストレートで分かりやすいと思います。</p> <p>感想ですが、この参考資料は「協働のマニュアル」を抜粋しながら、現場の本音の部分も出てきますので、シートがうまく使われるような気がします。</p>